

自走

特別進学コース主任

平原 澄夫

1年という期間はとても長い時間です。ですので、私は各学期の真ん中を節目と捉え、1年を6区間に分けて考えるようにしてきました。そうすることで、ある程度まとまった期間で、しかし、そう長くもない期間で、ものごとを考えたり、計画したり、振り返ることができるようになり、自分の気持ちも前向きにコントロールできるように感じます。出口の長いトンネルの中を一人で走るのはつらいですが、先に明かりが見えていれば、走りがいも出てきます。生徒のみなさんは1年をどのようにコントロールしているのでしょうか。

今号のテーマは、「思考力が問われる入試問題」です。現高3生より、センター試験に代わる大学入学共通テストが始まります。また、国立大学の2次試験や私立大学の一般入試においても、これまでになかった新傾向の入試問題が出題され始めています。なぜ入試問題の傾向が変わりつつあるのかについては、「自走（1号）」の中でも触れましたが、簡単に振り返ると、社会環境の変化に伴い、私たちに求められる資質や能力も変化しているということなのです。そのような力（思考力や判断力、表現力など）を身につけているのかどうかは、従来の知識を中心に問う形式のテストだけでは測定することが難しいため、これまでなかった形式の問題が出題され始めているのです。また、教科横断型の問い（複数の教科が融合した問題）も出題され始めました。

以下に示す問題は、今年の4月に3年進研模試（英語）で出題された問題です。もし、みなさんが解答者であれば、どのようにアプローチしますか。みなさんの意見を Classi ポートフォリオで共有して下さい。（英語の授業ではないので、ここでは日本語で説明することとします。また、字数制限も設けません。）

【問い】 出典 2020年度3年生4月実施 進研模試「英語」大問6B

次のイラストと表は、ある衣料品店について、1年前と現在の様子を比較したものである。レジの様子の変化と、その変化が衣料品店の経営にどのような影響を与えているかについて、40語以上50語以内の英語で書け。ただし、必ず self-checkout machine(s) (セルフレジ) という2語を用いて答えること。

1年前



Number of customers per year	About 120,000
Annual labor costs for cashiers	About ¥15 million

現在



Number of customers per year	About 120,000
Annual labor costs for cashiers	About ¥5 million